

-190- ^{135}Xe クリアランス法による有茎植皮の血
流動態に関する研究

第2報：皮膚温との比較・検討

癌研 頭頸科

○土田幸英，内田正興，鎌田信悦，
菊地 白，橋田昭雄

癌研 放射線科

小川伸一郎，金田浩一，津屋 旭

癌研 6 研

内田 勲

第15回本総会において皮内に ^{135}Xe を注入し、そのクリアランス率から皮膚血流を測定することを我々は報告した。今回は Delayed Deltopectoral Flap (以下 D-P Flap と略す) の皮膚血流と皮膚温とを経時的に観察し、それらについて検討を行った。

〔方法〕

^{135}Xe クリアランス法によつて三角筋部位での皮膚血流を測定し、同時に日本電子社製サーモビューア (J.T.G.-MA) を用いて三角筋部位の皮膚温を測定した。そうして左右の温度差による経時的変動を観察した。D-P Flap の Delay の方法により 1) U字型 Undermining D-P Flap, 2) 裏打ち付 D-P Flap に分類して、おのおのについて検討した。

〔成績〕

1) U字型 Undermining D-P Flap :

皮膚血流は Delay を行うことによつて、一旦減少してから徐々に回復していた。これに対して皮膚温は術後 2~3 日目で 1~2℃ 高温を示したが、日を経るにしたがつて下降した。

2) 裏打ち付 D-P Flap :

術後 11~13 日目において皮膚血流が術前の値まで回復しており、更に術後 3 週目では皮膚血流が 40~100% と増加していた。これに対して皮膚温は術後 11~13 日目では 0.5~1.5℃ と高温を示しているが、術後 3 週目では殆ど左右の温度差が認められなかつた。

〔結語〕

皮膚温を左右する内的因子として 1) 局所の血流、2) 組織の熱発生、3) 組織の熱伝導等が考えられ、今回、Delayed D-P Flap の皮膚血流と皮膚温とについて検討を行った。

① 皮膚血流と皮膚温との間には相関が認められなかつた。

② D-P Flap を Delay して、その経時的な皮膚温の変化は皮膚血流というよりもむしろ周囲組織の修復即ち組織反応熱による影響が大きいと考えている。